



春の里山 自然観察&クリーン活動(5/9) 新訂版『川越の自然』好評頒布中！

春の里山 自然観察&クリーン活動

場所(仮称)川越市森林公園計画地
開催日 2021年5月9日(日) 9時30分～
南文化会館(ジョイフル) エントランス集合

参加申込先 かわごえ環境ネット
4月5日(月) 午前10時から
お電話で環境政策課に ☎ 049-224-5866
当日の連絡先 南文化会館 080-5546-2352
m a i l k k a m a @ b e i g o . o c n . n e . j p

9時30分 集合 コース案内、ゴミ袋配布
9時45分 公園計画地の自然観察とクリーン活動
11時30分 ジョイフルで分別作業
12時 参加証明書交付 解散

この活動は感染症対策対応で実施いたします。
①マスク着用 ②参加者の体温検定の実施
③ソーシャルディスタンスの厳行
④アルコール等を使用した手指消毒の実施

主催 **かわごえ環境ネット**
事務局 川越市環境部環境政策課 ☎ 049-224-5866



読んだ方から絶賛いただいています。1冊700

(仮称)川越市森林公園計画地周辺で5月9日(日) 9:30-12:00 実施します。(詳細14面)

円+送料(郵送の場合)で頒布しています。

(詳細15面)

目次

コラム	社会と環境について思うこと(9) ミミズ利用による家庭生ごみ処理.....	2-3
	川越の自然をたずねて(96) アズマイチゲ-妖精の群舞.....	4
	川越の「宝」をたずねて(22) 伊佐沼.....	5-6
報告	第19回かわごえ環境フォーラム(詳報).....	6-11
	会員の活動(2題).....	11-12
	理事会・専門委員会(3題).....	12-14
予告	かわごえ環境ネットからのおしらせ・主催行事(7題).....	14-16
	会員・関係団体の主催・関連行事(5題).....	16-18
	広報委員会からのおしらせ.....	18-19
	イベントカレンダー(4月4日~5月26日).....	20



【コラム】社会と環境について思うこと (9) ミミズ利用による家庭生ごみ処理



自宅庭で管理しているミミズコンポスト



中にあるシマミミズ

今号の社会環境部会コラムでは、かわごえ環境ネット社会環境部会会員の実際の環境への取組について紹介します。今回取り上げるのは、自然の生き物であるミミズ利用による家庭生ごみ処理を実践して循環型社会を提唱している渡辺利衛さんです。ミミズを飼って18年、その経験と知見を共有するため、同じく社会環境部会の石川真が取材した協働コラムになります。

家庭生ごみ処理には色々な方法がありますが、渡辺さんが自宅庭で実践している、ミミズコンポスト。ミミズ利用による家庭生ごみ処理のことです。

みなさん、家を出た生ごみはどうされていますか？多くの方が可燃ごみとして出されていると思います。汚い・臭いなどと敬遠されがちな生ごみですが、もともとは私たちの生活に欠かせない栄養分をたくさん含んだ食べ物なので、家庭菜園やガーデニング堆肥として利用することができます。この家庭から出される生ごみを少しでも堆肥化（リサイクル）するための手段として、環境にやさしいミミズを使った生ごみコンポストがあります。ミミズは調理くずや食べ残しなどの有機物を食べて堆肥に変えます。年中無休で働く、地中の働き者です。

「ミミズコンポストとは」？ 生ごみなどの有機物を、ミミズと微生物の力を借りて分解し、黒く、栄養価の高い堆肥（compost）に変える処理方法、またはその堆肥のことです。比較的簡単に行うことができるため、ヨーロッパやオーストラリアでは各地で普及が進んでいます。

渡辺さんは「飼育環境さえ整えば、ミミズは自然に繁殖して生ごみを食べてくれる、そのふんは肥料になる」と話し、この肥料を使って庭で山芋などの野菜を作っています。

ミミズのふんには、作物の成長に関わる栄養素が多く含まれています。特に、カルシウムに関して、ミミズは石灰線という器官から炭酸カルシウム（アルカリ性）を分泌しているため、酸性に傾いた土壌を弱酸性にして土壌の pH を矯正できるのも強みです。また、ミミズが有機物と一緒に飲み込んだ様々な微生物たちのうち、体内で消化されなかったものはそのままふんと一緒に出てくるので、ふんには土壌微生物が多く含まれているのも特徴です。

家庭生ごみ→ミミズを介して肥料→野菜という、自然の生き物を使った自然の循環があり、庭で作った野菜が生ごみになれば、またミミズコンポストから肥料ができ、畑の野菜づくりの肥料になっていきます。

渡辺さんが推奨する家庭菜園との理想的な組み合わせとして、

◆野菜くず、いも類、卵のから、茶がら、果物の皮や芯（スイカ、熟柿）他生ごみ

↓

◆ミミズコンポスト（ミミズのふん、食べ残しごみ）

↓

◆家庭菜園（含む草花栽培）

また、ミミズが食べないものとして、ミカンの皮、ネギ類、からし類、魚の骨（アジ、サン

マはOK)がありますが、これ、は家庭コンポストで雑草と混合させて堆肥にし、家庭菜園に使うことができます。ミミズの繁殖力や食欲は環境によってさまざまです。

渡辺さんは庭でミミズ飼育しているコンポストを6個使用中です。コンポストの蓋を開けて土の中を探ると、ミミズが元気よく動いているのが分かります。ミミズは世界中に何千種類もいますが、身近でよく見かけるミミズの種類として、「フトミミズ」と「シマミミズ」がありますが、渡辺さんが飼育しているのがシマミミズ。フトミミズは、庭の枯草の下や畑にいる、長さ10~20cmの太いミミズで、枯草や落ち葉を食べており、外に出ると活発に動きます。対して、シマミミズの方は、堆肥(牛ふん肥料など)の土の中にある長さ7~8センチの細くておとなしいミミズです。川釣りの餌によく使われ、これが生ごみを食べてくれるミミズです。

シマミミズによる生ごみ処理の利点として渡辺さんが挙げるのが、

- ・手間がかからない
- ・ランニングコストはゼロ(ミミズで生ごみを処理する為、電気は全く使用しません。電動処理機のようにイニシャルコストもかかりません)
- ・ミミズのふんは消毒作用があり、臭いは気にならない
- ・尿も良い肥料になる

他にも、場所をとらない。小さなスペースで生ごみを処理できます。また、いつでも処理できます。ごみステーションまでのごみの運搬、生ごみの出し忘れ等、生ごみの諸問題から解放されます。そして、良質な堆肥ができる。ミミズコンポストで生ごみを処理するとたいへん良質な堆肥ができます。

ここからは、具体的な実施方法について紹介していきましょう。まず、ミミズコンポストについては、

①市販のプラスチック箱で、少し丈夫で黒色系、青色系がよい。加工は水抜き(尿抜き)穴を空

ける。

②コンポストの上部蓋は、寒暖のやさしい発泡スチロール厚さ3~5cm、箱より1cmぐらい大きく切り、雨水の侵入を防ぐようにする。

③コンポストは、尿や水分が流れやすく、底部に1~2cmの枕木を置き傾ける。

コンポストにミミズを入れる作業として

①まずコンポスト底部に畑土(プランターの土も可)を約1cmの厚さに入れる(ミミズ残渣(ざんさ)もよい)。

②スプレーなどで湿度を与える(適当に)。

③ミミズを入れる(パラパラ)。

④生ごみを入れる。全体に広がるように(箸を使ってよい)。

⑤畑土またはミミズ残渣を入れる(生ごみが見えないくらいパラパラと)。

⑥新聞紙を二重厚さ全面に乗せ、スプレーにて新聞紙が完全に湿ること。※新聞紙は必ず白黒紙、カラー色はNG。コンポスト内の湿度は新聞紙の乾き具合で知る。2~3日で新聞紙が湿度なく白く乾く場合はすぐにスプレーをする。そのうちに新聞紙は食べられて穴だらけでなくなる。すぐに新聞紙を補充する。

④ ⑤・⑥を繰り返す。

実際の実践での例

例1:冬場はミミズの活動が弱くなる場合がある。そのときは、生ごみは家庭用コンポストに入れる。

例2:ミミズコンポストの置き場が日当たりよく、真夏に(7月・8月)高温になる場合は対策する(渡辺さんは草運びかご等を上にかけている)。

渡辺さんは、ミミズ残渣を取り出しやすくしたミミズコンポストをテスト中で、さらによいものにするため日々改良を加えています。

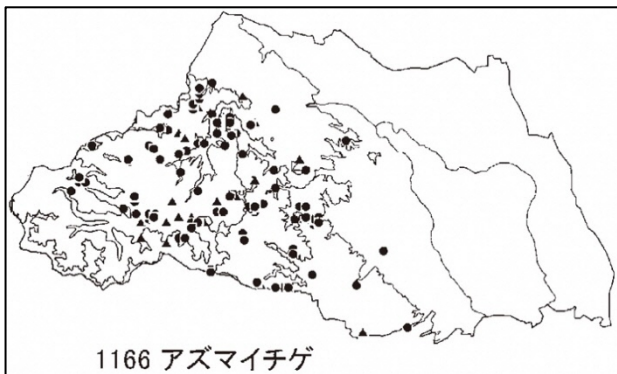
ミミズコンポストについて、詳しく知りたい方は渡辺さんまで直接お問い合わせください。

渡辺利衛 (Tel.049-242-4322)

(渡辺利衛・石川真)

【コラム】川越の自然をたずねて (96) アズマイチゲ-妖精の群舞

アズマイチゲは、埼玉県カテゴリーでは準絶滅危惧種 NT に指定されている山地性の植物で、下図の分布図でもわかるように、埼玉県の分布は西半分の山地に偏っています。



1166 アズマイチゲ
県内のアズマイチゲ分布
(埼玉県レッドデータブック 2011 による)

真ん中の下方にポツンと一点あるところが川越の池辺公園で、その南西が入間市です。入間市との関連は、本紙 2019 年 5 月号 (No.151) に報告があります。今回は、画期的な変化のあった池辺公園のアズマイチゲを報告いたします。

2008 年に池辺公園が整備された時、造園業者の方がアズマイチゲの存在に気づき、それ以後市でも保護対策をとっています。開園と同時にかわごえ環境ネットが、植生の調査や保全活動のボランティアを始動し、以後記録を取り続けています。これまで 10 年間で、多いときで 10 花前後、少ないときは 5 前後しか開花していません。それも日光がサンサンと降り注ぐような

アズマイチゲ開花日、開花数

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
株数				20,000				
開花日	3/12	3/3		3/7	3/1	3/2	2/20	2/22
開花数		10		14		10	30	300

日でないと花を開かないのです。まことに気難しい相手ではあります。でも、葉の方はどんどん広がってきていて、柵をまたいで違うエリアにも展葉してきています。アズマイチゲは、写真のように地下茎に栄養を貯め、そこから芽が出て繁殖していきますので葉が増えていくのでしょう。葉だけの数は下表 (2017 年) のように 20,000 株近くあり、その後増え続けています。

しかし、あまりに花数が少ないのはずっと気になっていて、専門家に聞いたりしましたが、はっきりしたことはわからずじまいでした。

ところが、今年は一気に 300 近くも開花したのです。2 月 22 日に最初の開花が確認されましたが、この開花日も例年よりだいぶ早かったです。アズマイチゲは、スプリングエフェメラルと呼ばれる春植物の仲間です。落葉樹の葉が展開する前に太陽を浴び、栄養を蓄え足早に姿を消します。スプリングエフェメラルとは「春の妖精」と訳されることもあります。この春のアズマイチゲは、まさに妖精が群舞をしているような光景でした。この開花情報は拡散され、いつもは人の少ない池辺公園がちょっと脚光をあびたかのようなようでした。この花は、はかなそうに見えて 3 月 18 日にも咲いていましたので、開花期は 20 日間以上あることがわかりました。

(賀登環)



妖精の群舞 (3 月 10 日)



ニホンミツバチ来訪



アズマイチゲの根茎



来訪者

【コラム】川越の「宝」をたずねて (22) 伊佐沼



伊佐沼 (北東側から)



伊佐沼 (北西側から)



キタミソウ (2018.11.21 編者撮影)

コラム「川越の「宝」をたずねて」は、かわごえカフェ 2019 のテーマ、「川越(と周辺地域)の宝を掘りおこそう」で参加者のみなさんと作成した「川越のお宝マップ」の地点を紹介していくコラムです。

今月のお宝紹介は、「伊佐沼」

伊佐沼は、埼玉県内では最大の自然沼で、灌漑用ため池として利用されています。2018年11月11日に絶滅危惧種とされるキタミソウが発見され、さらに伊佐沼の存在感がクローズアップされました。キタミソウは埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例にリストアップされている種で、強い保護を要請されています(注1)。ツンドラ地帯に分布し、北海道の北見で1901年に発見されたことからキタミソウと名付けられたこの希少種が、埼玉県の川越市で発見されたことに、この種子がどのように旅をして川越で自生するようになったのか、想像すると自然や生態系の奥深さがなんて楽しいんだろうと思います。

また、個人的に伊佐沼の歴史に興味があったので調べてみたところ、3千年前の縄文時代後期にはすでに存在し、古墳時代には沼とその周辺部や入間川流域では灌漑用水路を造り、広域に水田が拓かれていったようです。14世紀のころに古尾谷庄の古尾谷近江太郎信秀は、水田をさらに開発するために、灌漑用水となる「古尾谷沼」の開発に取り掛かります。伊佐城(茨城県下館市)の水利土木技術に秀れた武将「伊佐氏」に命じて大土木工事をおこし、今の伊佐沼の原型が造られ、この伊佐氏の功績をたたえ、

「伊佐沼」の名称になりました。およそ600年前は、少しの雨でも洪水が発生することや、日照り続きによる旱魃(かんばつ)に悩まされていたこの土地に、人の知恵と技術によって荒くられる自然を操り、共に暮らしを営んできた伊佐沼の姿を今でも見ることができるのは、先人の努力のおかげです。

昭和初期までは伊佐沼の面積は42haもあり、その後に北部地域を干拓し、現在の伊佐沼の面積(約28ha)になります(注2)。キタミソウが群生している場所は、干拓後にできた伊佐沼通りの道近くになります。

600年前の伊佐氏による伊佐沼の土木工事がなかったら、昭和初期の伊佐沼北部の干拓がなかったら、また野鳥が伊佐沼に飛来しなければ希少種のキタミソウもここに自生することがなかったのかもしれないと考えると、このキタミソウの保全も次世代につなぐ大切な活動になっていきますね。

伊佐沼へのアクセス

JR川越線・東武東上線川越駅より西武バス川越グリーンパーク行き、伊佐沼冒険の森バス停下車徒歩10分、東武バス上尾駅西口・埼玉医大・川越運動公園行き、伊佐沼入り口バス停下車南に徒歩10分

(飯島希)

注1) 埼玉県レッドリスト2011 絶滅危惧IB類: 近い将来における絶滅の危険性が高い種、及び環境省レッドリスト2015 絶滅危惧II類(UV): 絶滅の危険が増大している種

参考文献

- 1) かわごえ環境ネット: 新訂版「川越の自然」(2021)
- 2) 川越民報編集委員会: 川越の歴史散歩(1999)



注2 地図に見る伊佐沼の今昔

(左図 迅速測図 埼玉県下武蔵野国入間郡鴨田村 (1881) ©農研機構農業環境変動研究センター
右図 電子地形図 (タイル) ©国土地理院)

【報告】第19回かわごえ環境フォーラム (詳報)

2月27日(土) 9:30-16:30にウエスタ川越会議室1・2において、かわごえ環境ネット設立20周年記念事業のメインイベントである「第19回かわごえ環境フォーラム」を開催しました。本紙2021年3月号(No.173)では速報として概要をお知らせしましたが、今号では詳報をお伝えします。

なお、今回のイベントは会場とオンライン配信のハイブリッド形式で実施しており、当日の様子を録画でご覧いただけます。ぜひご覧ください。

さい。また、午前の中で発表された報告をはじめとした「かわごえ環境活動報告集2021」もダウンロードできます。下記のページからアクセスしてください。(小瀬博之)



「第19回かわごえ環境フォーラム」2月27日(土)開催
(録画配信、「かわごえ環境活動報告集」ダウンロード)
<https://kawagoekankyo.net/news/003239.html>

①9:30-12:00 個人・団体の環境活動報告会



会場の様子

9:30からの開会式に続いて、2年ぶりの環境活動報告会が開催されました。例年なら最初に報告してくれる「ふくはら子どもエコクラブ」が新型コロナウイルスの緊急事態宣言中のため投稿のみとなり、静かなスタートとなりました。

1. 2020年に会ったきのこと 第6回 川越周辺のきのこ

コキララタケ、ニワタケ、ベニヒダタケなど今年も珍しいキノコの話をしてくれました。

2. 菊地三生・渡辺利衛：クリーン活動

年4回行われているクリーン活動の詳細を紹介してくれました。

3. 武田侃蔵（クリーン&ハートフル川越）：クリーン川越めざして 20年の歩みとさらなる20年へ

2000年のネット設立当時の「クリーン川越めざす会」の活動を市報の写真とともに振り返りました。

4. 丸岡巧美・真鍋豊顕・成川正行（環境製品評価研究協会）：家庭の省エネ対策とその適用事例

サーキュレータ使用のデータに基づいた分析とLED灯による省エネ対策を報告してくれました。

5. 山中和郎（木びちっこの会）：（仮称）川越市森林公園計画地内ナラ枯れ感染状況

5mmほどのカシナガによる枯れ木の詳細を発表しました。これからの対策も提案しました。

6. 藤岡重歳（NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ）：「生きもの育む田んぼプロジェクト2020」活動報告 コロナ禍だからこそ！～繋げていこうよ、田んぼと地域と生きもの～

今年の活動状況と農福連携、マコモ栽培の拡大等について報告がありました。

7. 増田知久（社会環境部会代表）：2020年度かわごえ環境ネット 社会環境部会 活動報告～新体制 コロナ禍でもできることを着実に～

「持続可能な社会の構築・地球温暖化対策の推進・循環型社会の形成」の大きな目標に向けて「地域レベルでの小さな目標を立てていく」とし、広報掲載のコラム、地域団体インタビュー、環境講演会、アースデイの紹介をしました。

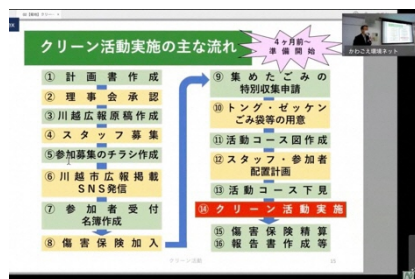
8. 賀登環（自然環境部会代表）：自然環境部会の報告

メインテーマ（水と緑と土 生物多様性保全）について、写真を交えながら報告しました。

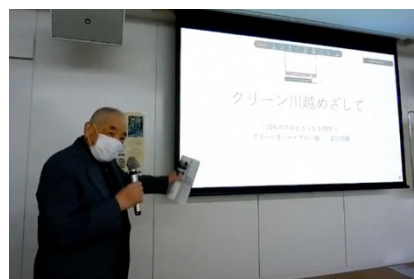
（横山三枝子）



1. 大久保彦さん



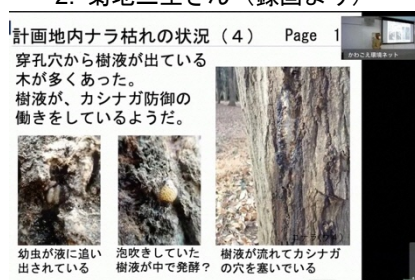
2. 菊地三生さん（録画より）



3. 武田侃蔵さん（録画より）



4. 丸岡巧美さん



5. 山中和郎さん（録画より）



6. 藤岡重歳さん

②12:50-14:50 新訂版『川越の自然』出版記念講演会「自然と歴史、ともに生きるまち・川越—里山のよさを回復させる手がかりを見つけよう—」

牧野彰吾さんは植物に造詣の深い方ですので、いつも植物に関してのためになるお話をいただいておりますが、今回はちょっと違う切り口で、歴史から解析しようという試みです。

現在、自然は守るべきものであって、絶滅危

惧種なども選定され、人類の破壊・開発行為からいかにして生き物を保護するかという時代ですが、大昔は、自然はむしろ人類にとって脅威であり、立ち向かっていたのです。それが、いつ立場が逆転したのか、世界史や日本史の中で

はだいたいわかるが、ここ川越ではいつなのか、これをひも解いてみようというわけです。

江戸時代、関東の平地は湿地帯でよい土地ではなかった。徳川幕府は代々、土地改良事業を行い、利根川東遷、荒川西遷などで洪水対策をした。今風に言えば「開発公社 徳川組」か。そのころの川越はというと、江戸からも近く舟運で栄えていた。この舟運が後に、鉄道の導入を遅らせることになったのはよく知られた話だが、明治16年(1883年)には上野から川越を避けて大宮、熊谷まで開通した。

明治39年(1906年)の書物「常用救荒飲食誌」という本にムラサキケマン、ヒガンバナ、キツネノボタンなどの食べ方が書いてある。これらはいわゆる毒草で、今は食べない。しかし、当時は何らかの前処理をして食べる方法が書いてある。救荒植物としての利用があったということで、この時点ではまだ、人間が自然を越えたとはいえないであろう。

やがて、時代は大正、昭和と移り、石炭ガス・電力などが開発され川越も近代化の波にのる。そして長い戦争の後、敗戦で世の中が大きく変わる。化石燃料が普及するに伴い、燃料革命、肥料革命と一気に自然との共生関係が切れ、限界点を越えるようになったのではないか。

結論として何が言えるか

- ・エコロジカルフットプリント 日本2.9
- ・必然を積み重ねつつ、どこかで限界を超えた
- ・限界点をどことみるべきか
- ・いわゆる人と自然の持続可能な共生点はどの年あたりだったのか
- ・肥料革命、燃料革命のあとは明らかに限界点を越えている
- ・限界点を戦前とするか
- ・「終戦復興すぐ」という時期をどうみるか。薪・かまどの終焉期
- ・外来植物がちらほらの時期はどのあたりだったか

- ・里山の保全活動はどのころの再現を目指すべきなのか
- ・限界を復元目標とするのは一方法。その目標の「見える化」が必要
- ・自然のよさを知る人、理解する人、行動する人を増やすことが大切
- ・歴史はいままで自然との戦いだっただけ
- ・しかし、いま自然との共生に思いを寄せる必然性がある。環境に異変が起きていることに気づくのは大切なこと
- ・だからどうするの？だから何をすればいいの？
- ・多くの人が自然にかかわる何らかの動きをしよう
- ・保全活動よし、調査よし、記録よし、トークよし
- ・自然を守ろうとするなら、自然の何を守るのかを明らかにする必要あり
- ・絶滅危惧種は「見える化」の一つの象徴。川越の守るべきはなにか

以上が牧野氏の講演の骨子ですが、内容的に示唆に富むものでした。人類はどこで限界点を越えたのか、物語風にいうと、どこで道を踏み外したのか、間違えたのかといえそうです。便利で豊かな生活の代償として失った自然・生態系は回復が困難なレベルにまでなっています。それをどこまで回復させるのか。限界点まで戻れる場所が少しはあっていいのではないかと、という言葉が心に残っています。このあたりが表題のテーマにつながっています。

この報告を書くにあたり改めて「YouTube かわごえ環境ネット」を視聴しました。牧野氏は50枚以上のパワーポイント資料で古い写真や書物、イラストを基にわかりやすく川越の歴史を語ってくださいました。ゆっくりと家のパソコンで見直しますと、スゴイ講演だったんだ、と改めて感じ入っています。みなさまもどうぞトライしてみてください。(賀登環)



講演の様子



講師を務めた牧野彰吾さん



舟運と鉄道の発達から人が自然を超えたのはいつごろかを考察（録画から）

③15:00-16:30 設立 20 周年記念シンポジウム『川越の環境を語る ～これまでの 20 年とこれからの 10 年～』

パネリストに、かわごえ環境ネットの小瀬博之理事長(兼広報委員長)、増田知久副理事長(兼社会環境部会代表)、賀登環理事(兼自然環境部会代表)を迎え、かわごえ環境ネットのこれまでの 20 年の歩みとこれからの 10 年について語り合いました。

小瀬理事長「かわごえ環境ネットの 20 年の取組とこれから」

小瀬理事長には、かわごえ環境ネットが誕生した経緯やフォーラムの開催・広報誌の発行といった内外にむけての発信の経緯及び成果について話していただきました。

- ・1998年に策定された川越市環境基本計画で位置づけられた「川越の環境をよくする連絡協議会」がかわごえ環境ネットの準備会当時の仮称。2000年8月の設立時に「かわごえ環境ネット」という名称で発足した。

- ・川越市環境基本計画にある“川越の将来の望ましい環境像～みんなでつくる、自然・歴史・文化を調和した人と環境にやさしいまち～”を実現するために作られた、市民・事業者・民間団体・行政らが協働する組織がかわごえ環境ネット。

- ・2000年12月には活動発信を「かわごえ環境ネット会員通信」という形で始め、2001年にはホームページ作成、2006年から月刊紙「月刊かわごえ環境ネット」として発信、2021年3月で173号になる。

- ・市民や民間団体、事業者の具体的な環境行動

指針に「川越市環境行動計画」があるが、この策定にかわごえ環境ネットは大いに協力している。

- ・20年間という活動によって、ボランティア活動の場や環境に関心をもつ個人・団体の人的交流の場の創出ができた。

賀登理事「かわごえ環境ネット 20 年 何をめざし 何ができたか」

設立時から活動している賀登理事には、具体的な活動内容について紹介いただきました。

- ・設立当初(2000年)は経済バブルが崩壊した直後で産廃の不法投棄やダイオキシンなどが社会問題になっていた。

- ・当時の課題となっていたゴミ問題、たばこのごみ捨て問題や放置自転車の改善にむけては、かわごえ環境ネットの社会環境部会が担当。

- ・開発によって喪失した自然環境の保全に向けては自然環境部会が担当。

- ・2010年生物多様性条約締約国会議を機に、生物多様性保全にむけた活動として市民による生き物調査を2017年から始める。

- ・成果としては、川越の街はきれいになり、市民の関心を呼び起こすことができたと思う。また小学校などへ環境教育の機会を創出したことや自然観察会などによって子どもたちの原体験としてサポートできたと思う。

増田副理事長「川越の自然の未来を考えていくために」

3年前からかわごえ環境ネットの活動に参加、

2020年6月から副理事長になりました。青年海外協力隊、国際協力機構の一員として海外の環境問題の現状を目の当たりにしてきた経験を生かして、これからの川越の自然の未来について話していただきました。

- ・グアテマラという国に居てその国の経済発展と環境問題を見てきて、日本の裏側の国々の食糧事情や環境問題は他人事ではなく、グローバルな課題は日本や川越にもつながっている。

- ・30代になって川越に拠点を戻し、改めて川越という町を意識すると、バランスのいい都市(市街地の農地と緑地帯)だと感じる。

- ・川越という町の魅力を改めて認識できたのは、市民活動に参加したから。そのような場の提供をするかわごえ環境ネットの活動は貴重。

- ・ライフスタイルの10%を自然や社会のために使うことで、環境にやさしい、居心地のいい社会づくりにつながっていくのではないかな。

- ・未来に伝えていきたい川越の街の風景、その場所の物語を残していくことが、未来を考えて行くうえで大切なことだと思う。

- ・未来を考えることは、自分の子どもがどんな風に育ってほしいかと考えることと似ている。たくさん子どもたちが自然に囲まれた中で育ってほしい。自分や子どもの未来と町の未来を重ねて考えるといいのではないかな。

これからの川越の環境の未来について深めた議論(キーワード)

- ・1人の100%ではなく、1%の100人を。中間として10%の10人。10%の10人なら集まりやすい。

- ・初めて活動に参加した人から、「自然や植物ってこんなに楽しかったのね」という言葉をもらう。

- ・未来を考えると暗くなりがちだからこそ、“楽しく”をアピールしたい。

- ・AIやロボットの時代になっていく中、身体をもった人間としてリアルな関係、心の触れ合いを大切にしたい。

- ・人間の五感で感じることを大切にしてい

とが持続可能な未来につながる。

- ・子どもたちは土に触れてほしい。

- ・自然の楽しさ、魅力を地道に語り、多方面に伝え広げていくことが大切。

- ・未来の環境づくりは、一人ではできない。

- ・風景を守ること、それは自然を守ること、文化を守ることになる。

- ・緑が減っていく心配はあるが、だからこそまだまだ保全にむけた活動ができるし、それを喜びと感ずる。

- ・声をかけられて、自然観察などに参加するようになって楽しい。なぜ楽しいのかと思ったら、子どもころ、土や緑と触れ合っていた原体験があったからかもしれない。

- ・自分ができるとは限られているが、一隅を照らすこと、できることをやっていく。

- ・子どもたちが自然と触れ合った体験が、後々の自然保全につながるのではないかな。

- ・記録と記憶が大切。子ども時代の原風景の記憶が、今を生きる原動力になる。だから子どもたちに土に触れ自然の中で楽しんだ体験をしてほしい。

- ・今年度はコロナ禍で外出が制限される中、むしろ町とのつながりを問いなおすよききっかけになったのではないかな。

- ・成熟した社会だからこそその幸せの在り方、その方向性を持続可能な良い方向へとむけていきたい。

まとめ

- ① “楽しく”を意識して活動すること。

- ② 市民一人ひとりができることは小さいけれど、その小さなできることを地道にコツコツ活動していくこと。

- ③ 風景を残していくこと、それには心に残る物語を作っていくことが大切。それは、子どもと触れ合ったり、自然や土と触れ合ったりして心に響く体験を、かわごえ環境ネットの活動を通して積み重ねていく。

自然の中で、心に響いた楽しい体験の記憶を積み重ねたその先の未来に、体験の場となった

風景の物語 (story) が作られ、次世代へとつないでいくことで、自然環境が守られていくのではないのでしょうか。それを思い描いて、かわごえ環境ネットは、参加して下さるみなさんと

これからの10年も、地道にコツコツ、楽しく！活動を続けていくことを共有してシンポジウムを終えました。

(飯島希)



パネルディスカッション (録画から)



会場との対話 (録画から)



進行役の飯島希さんのまとめ (録画から)

【報告】 会員の活動

田んぼ女子への道 (体験記)

春の暖かさを感じる日が、増えてきました。外での作業がだいぶ楽になってきたのでリフレッシュも兼ねて、週末作業へ参加してきました。

今の時期 (田植え前)、どのような作業もするのかわからないので (もちろん素人なので・・・)、行ってその日の指示をもらいます。

この日は、トラクターで耕うん・畔切り等でした。

初体験なので、かわごえ里山のメンバーや地元の農家さんから教わります。トラクターの操作を教わりながら、田んぼ1反耕うんしました。始めは緊張して、恐る恐る乗っていました。慣れてくると少し操作のコツがわかってきて、楽しくなってきます。ペーパードライバーの私でさえ、いつの間にかハマってしまいました。

そして田植え機・コンバインに乗ってみた



トラクター体験

NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ

い！っと目標 (今年の?) が密かにできました。

次に畔切り作業も体験しました。

畔切りする意味・手順を丁寧に説明してもらいます。こちらは、なかなかの力作業です。ちょっとたいへんなので、畔に上げた土を踏み固める作業をしました。これは、子どもたちでも楽しくできそうです。

このように「かわごえ里山イニシアチブ」では、女性にもできる作業も多いのが特徴で、気軽に参加できます。また季節を感じながら、みんなで楽しくお米づくりができるのが魅力です。

私の田んぼ女子への道のりはまだまだですが・・・

これからもいろいろと楽しい発見がありそうです。

(鈴木景子)



畦切作業

「(仮称)川越市森林公園」での雑木林保全再生活動

川越フォレストクラブ



参加メンバー

3月10日(水)「(仮称)川越市森林公園」計画地にて、平日にも関わらず、女性4名、男性8名の参加者で、午前中のみの活動でしたが晴天の中、気持ち良い汗をかきました。

活動内容は、参加者の安全を最優先とした、ハード部隊(チェーンソーと刈払い機使用の参加者)とソフト部隊(希少種保護活動参加者)にエリアを分けてのコラボ活動でした。

オカメザサは残し、アズマネザサは刈り取るなど、植生に配慮しました。また、道路脇の杭も腐朽倒木しており、この日の間伐材を使い新たに杭を打ち直しました。雑木林保全再生活動は、住宅の近接が多く、近隣住民の安全面も考慮するため、活動内容も多岐にわたりますが、とてもやりがいのあるものです。次週、3月15日には地面に落ちてしまった鉄線を杭に打ち付ける作業を行いました。

今後の予定は、奇数月の第2水曜日午前中だけの活動ですが、老若男女問わずどなたでも気軽に参加できますので、興味のある方は体験だけでもけっこうですので、私たちと雑木林の保全再生活動に心地よい汗をかいて、そして楽しんでみませんか?

参加希望や問い合わせは、賀登(Tel.049-234-9366)までお願いします。

(沖本八十陽)



活動の様子



間伐材を使った杭打ちの様子



杭に鉄線を張る

【報告】理事会・専門委員会

理事会・事業運営委員会

3月24日(水)9:00-10:00に第11回事業運営委員会、10:00-12:10に第12回理事会を開催しました。両者は関連しているので、合わせて主要な事項を報告します。

①第19回かわごえ環境フォーラムについて

2月27日(土)に開催した「第19回かわごえ環境フォーラム」の反省点として、報告集の今後の対面でのコミュニケーションツールとしての活用の課題、オンラインで参加した人に配布資料がないとわかりにくい点があったこと、

カメラの設置位置や発表者にカメラを意識してもらうための工夫が必要などの項目が挙げられました。また、録画があるために記録が取りやすいなどの面も挙げられました。

当日の会場参加者は40名であったと報告が事務局からありました。

②今年度の事業報告及び新年度の事業計画、総会議案所の作成

次年度予算案について内容を確認しました。川越市からの補助金の削減や広報費の増額によ

り財政状況は悪化していることから、各専門委員会（部会）に参加費の徴収・増額や講師料の減額などの検討を依頼しました。

また、4月14日（水）の次回理事会において総会議案書案を審議するために、代表者は4月12日（月）までに文案を事前提出するように依頼しました。

③川越市環境行動計画「環境に配慮した行動チェックシート」の実施

2020年度は、東洋大学総合情報学部の授業履修者244人、川越市環境部職員76人、オンラインでの回答が12人の332人が回答しました。

東洋大学と川越市の比較では、平均点はほとんど変わらず200満点中約60点であり、過去の調査とも同様の傾向であることがわかりました。

④設立20周年記念出版 新訂版「川越の自然」

出版の報告を川越市長に行うことになりました。また、編集委員が本を買い取る際の基準を決めました。

⑤会員動向

1名が入会、2名が退会したことにより、3月24日現在の会員は、個人142、民間団体24、事業者25、行政1の合計192会員となりました。

（小瀬博之）

社会環境部会

3月の社会環境部会の例会は、12日（金）に福田ビル3階にて10名の参加で開催されました。今回は、かわごえ環境フォーラムに参加してくださった会員一名が例会にも初参加してくださいました。

はじめに、2月27日に実施しました「かわごえ環境フォーラム」についての感想を参加メンバーからいただきました。その後は先月に引き続き、来年度の社会環境部会の活動計画について協議を行いました。環境講演会については、日本においても注目度があがっている脱炭素社会に関するテーマの講演会が候補としてあがり

ました。新規活動として計画している、SDGs普及のワークショップや「みんなの思い出に残る自然スポットのアンケート」についても実施していく方向で話がまとまりそうです。アースデイ川越や北公民館かんきょう祭りなどのイベント出展についても、イベントが実施される場合、参加していく予定です。また、市内の環境関連団体との連携強化についても部会のメンバーで協力し合い進めていきたいと思えます。

スタディツアーに関しては、2021年度は中止とし、2022年度に再開したいと思えます。

（社会環境部会代表 増田知久）

自然環境部会

3月例会は12日（金）福田ビル3階にて12名の参加で、話題も多く活発な議論がなされました。

1. 活動報告

①「(仮称)川越市森林公園」計画地定例活動

2月22日（月）19名参加 林内生き物観察、川越初雁高校前側市有地の手入れ 3月8日（月）小雨9名参加 川越初雁高校前市有地オドリコソウのある場所の手入れ 2日後の川越フォレストクラブ作業の下ごしらえ

② 池辺公園定例活動 3月9日（火）9名参加

アズマイチゲが画期的に開花したのでその数をエリア毎にカウントする。コスミレ、タチツボスミレ開花確認。アオイスミレはまだ葉のみ。

③川越フォレストクラブと協働作業 3月10日（水）別ページ参照

④ ナラ枯れ木の現況（「(仮称)川越市森林公園」計画地内） 3月11日現在で26本のうち14本の伐採完了（環境政策課みどりの担当が業者に発注） 民有地は動きなし。4月から実験的に3種くらいの対策を実施したい。

⑤「福原水と緑の会」2020年の報告 地元雑木

林の伝統的な手入れ、こどもエコクラブの活動支援、ふるさとの緑の景観地の調査や再生活動など

⑥「かわごえ里山イニシアチブ」マコモ講演会やストロベリーキャンドルの案内

⑦「(仮称)川越市森林公園」計画地で珍しい野鳥、アリスイ(キツツキの仲間)、トラツグミ、マヒワなどが確認され、野鳥狙いのアマチュアカメラマンが増えている。

2. 協議事項

① 来年度の計画について

行政とのパートナーシップの事業継続、雑木林保全再生のための定例活動、生き物調査の継続、コロナ禍で実施可能か不透明だが、市民対象の観察会、学校支援などを計画し、それに伴う予算について検討した。時間を多く要するのが生き物調査で、4月5日に別途、計画を検討することになった。

②ナラ枯れ被害木への対応について(カシナガホイホイ+防虫ネット、濡れタオル+ビニールシートなどの防除法を4月から試みる)

(自然環境部会代表 賀登環)

予告の掲載に際して重要なお知らせ

新型コロナウイルスの感染状況により、かわごえ環境ネット主催の行事等において予定の変更がある場合には、本会ホームページ(<https://kawagoekankyo.net>)でお伝えします。会員団体等の行事についても、情報が入ればホームページに掲載いたしますが、参加しようとする前に問い合わせ先にご確認ください。

【予告】かわごえ環境ネットからのお知らせ・主催行事

【トピック①】春の里山 自然観察&クリーン活動(5月9日 日曜日開催)

かわごえ環境ネットは、春夏秋冬の年に4回のクリーン活動をしてまいりました。2021年度最初の春のクリーン活動を行います。

活動場所は(仮称)川越市森林公園計画地です。この場所は、あまり市民に知られていない、生物多様性に富む貴重な里山です。

新緑の春の里山で、自然観察とクリーン活動を行います。多くの方の参加をお待ちしていま

す。

日時:5月9日(日)9:30-12:00

集合場所:川越南文化会館(ジョイフル)エントランス前

募集人員:先着30名

申込:環境部環境政策課(Tel.049-224-5866)

[4月5日(月)より]

(菊地三生)

【トピック②】新訂版『川越の自然』出版・頒布(かわごえ環境ネット設立20周年記念出版)

絶賛頒布中です。部数に限りがありますので早めにお求めください。

2021年2月27日発行

編集:かわごえ環境ネット「川越の自然」編集委員会

発行:かわごえ環境ネット

公益財団法人サイサン環境保全基金助成

判型:A5判 180ページ フルカラー

頒価:700円

【頒布方法】(頒価1冊700円+送料)

①川越市役所本庁舎5階環境政策課窓口

窓口において頒布します。

②郵送

かわごえ環境ネット事務局(川越市環境政策課)に希望冊数、送付先の住所、氏名、連絡先(メール、電話等)の情報をお知らせいただき、お申し込みいただくとともに、冊数分の頒価と郵送料(1冊120円、2冊160円、3冊以上は問い合わせ)

わせください)を含めて必要な金額を下記口座に送金してください(送金手数料は自己負担となります)。

[口座番号 00180-2-13880(ゆうちょ銀行以外から振り込む場合は、ゆうちょ銀行 〇一九支店 当座 0013880),加入者名:かわごえ環境ネット]

申込と送金の確認後に発送いたします。

【頒布・問い合わせ先】

かわごえ環境ネット事務局(川越市環境政策課 環境推進担当)

Tel.049-224-5866, Fax.049-225-9800

kankyoseisaku@city.kawagoe.saitama.jp

【内容の詳細や頒布方法などの最新情報】

かわごえ環境ネット 20周年記念事業ホームページをご覧ください。



<https://20th.kawagoekankyo.net>

【トピック③・会員各位】会費納入のお願い

2021年度会費の納入をお願いします。年会費は、個人会員 1,000円、団体会員(民間団体、事業所、川越市)は 2,000円です。

5月21日(金)までにゆうちょ銀行の口座に振込をお願いいたします[口座番号 00180-2-13

880(ゆうちょ銀行以外から振り込む場合は、ゆうちょ銀行 〇一九支店 当座 0013880),加入者名:かわごえ環境ネット]。振込方法によって手数料がかかります。

【トピック④・会員各位】2021年度総会

会員各位には5月22日(土)10:00-11:00に開催される「2021年度総会」のご案内と返信はがきをお送りいたします。4月16日(金)必着で返信はがきにより出欠をご連絡ください。

なお、「新型コロナウイルス感染拡大防止に対するかわごえ環境ネットの行動方針」に基づき実施いたします。総会終了後の懇親会は開催いたしません。

【トピック⑤】川の一斉水質調査(6月6日開催)参加者募集(5月22日説明会)

毎年6月第1日曜日に「身近な水環境の全国調査」を行っています。川越市ではかわごえ環境ネットが「川の一斉水質調査」として主に担当していて、今年は6月6日(日)午前に行います。

本会では、荒川水系と新河岸川水系に分かれて採水と水質分析を行っています。まだ詳細が決まっていますが、予告として参加者募集をいたします。

参加できる団体・個人の方は、本会総会(5月22日土曜日)開催前の9:30に説明会を開催しますので総会会場にお越しいただくか、5月21日(金)までにかわごえ環境ネット事務局(川越市環境政策課)まで参加したい旨をご連絡く

ださい。

調査地点の近くにお住まいの方は特にご協力いただければ幸いです。ただし、水質調査会場は北公民館または中央公民館などの川越中心市街地となります(入間川、小畔川水系は、社会状況によっては水質調査の試薬を配付して各自で実施する可能性あり)。昨年の調査地点は、月刊かわごえ環境ネット2020年7月号(No.165)5ページの地図をご覧ください。



月刊かわごえ環境ネット2020年7月号(No.165)

自然環境部会主催事業

★「(仮称)川越市森林公園」計画地 植物調査・
保全活動 (毎月第2・第4月曜日)

日時: 4月12日・26日, 5月10日・24日 (月)
9:30-12:30

集合: 川越南文化会館 (ジョイフル)
問い合わせ: 賀登 (Tel.049-234-9366)

★池辺公園定例活動 (毎月第2火曜日、変更の
場合もあります)

日時: 4月13日・5月11日 (火) 9:00-12:00

場所: 池辺公園 (川越市池辺 1302)

問い合わせ: 賀登 (Tel.049-234-9366)

★春の里山自然観察&クリーン活動

日時: 5月9日 (日) 9:30-12:00

集合: 川越南文化会館 (ジョイフル)

詳細は、【トピック①】をご覧ください。

会合

◆広報委員会 (2021年4月度)

日時: 4月7日 (水) 9:00-9:30

オンラインミーティング (委員には別途案内)
*次回は5月5日 (水・祝) 9:00-9:30 オンライン
ミーティング

●社会環境部会 (2021年4月度)

日時: 4月9日 (金) 13:00-15:00

場所: 福田ビル3階会議室 (川越市郭町 1-2-3)

*次回は5月14日 (金) 13:00-15:00 同所

*会員はどなたでも参加できます。

●自然環境部会 (2021年3月度)

日時: 4月9日 (金) 15:00-17:00

場所: 福田ビル3階会議室

*次回は5月14日 (金) 15:00-17:00 同所

*会員はどなたでも参加できます。

◆事業運営委員会 (2021年度第1回)

日時: 4月14日 (水) 9:00-10:00

場所: 福田ビル3階会議室

*次回は5月19日 (水) 9:00-10:00 同所

◆理事会 (2021年度第1回)

日時: 4月14日 (水) 10:00-12:00

場所: 福田ビル3階会議室

◆理事会 (2021年度第2回)

日時: 4月28日 (水) 9:00-12:00

場所: 福田ビル3階会議室

*次回は5月19日 (水) 10:00-12:00 同所

【予告】会員・関係団体の主催・関連行事

NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ

問い合わせ: 増田純一 (E-mail: hatsukarinosato@googlegroups.com, Tel.070-5599-2623)

ホームページ <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

当会では、生物多様性豊かな田んぼの保全を
目的に、みんなで連携して環境にやさしいお米
作りをしながら田園風景の保全や地域づくりを
行っています。入会は随時受け付けております。



Web サイト



Facebook ページ



Twitter

◎種まき

日時: 4月25日 (日) 9:00-15:00

場所: 高梨農園 (川越市福田 439)

お米の種をトレイに蒔いて育苗を始めます。

詳細はお問い合わせください。

◎田んぼ懇談会

日時: 5月22日 (土) 15:00-17:00 (いつもより
1時間早めて実施)

場所: 里山古民家 (川越市福田 339)

定員: 会員、非会員、どなたでも参加可能です。

◎田んぼで遊ぼうピクニック

日時: 5月1日 (土)・2日 (日) 終日適宜

場所：福田の「CO江戸かわごえ初雁の里」田んぼ（川越市福田 310 地先）

参加者：どなたでも参加可能です。

レンゲや真っ赤なストロベリーキャンドルが

田んぼを彩ります。イベントではありませんが、自由に田んぼに入ってお弁当などを広げて自由にお楽しみください。

クリーン&ハートフル川越

問い合わせ：渡辺利衛（Tel&Fax.049-242-4322）・武田侃蔵（Tel.090-2521-5770）

◎「やめましょう！歩きタバコ・ポイ捨て・自転車放置」のゼッケンや「かわごえ環境ネット」の腕章をつけて、まち美化啓発運動

①第1火曜日・第3金曜日

日時：4月6日（火）・16日（金）、5月4日（火）・21日（金）13:30-15:00

川越駅東口アトレ横歩道橋下から川越市役所まで。

②第2日曜日

日時：4月11日・5月9日（日）9:30-11:00

本川越駅交番横から各方面に分かれて活動、中央公民館でゴミまとめ、解散。

③第4土曜日

日時：4月24日・5月22日（土）13:30-15:00

川越駅東口アトレ横歩道橋下から本川越駅ま

で。ペペ地下のごみ収集所で分別、解散。

◎川の国・新河岸川市内流域の清掃

原則として第4日曜日 9:00 より 2 時間。参加できる人は、担当箇所分担の割り振りのため、実施日の3日前までに武田（090-2521-5770）へご連絡ください。

①4月25日（日）9:00-11:00

新河岸川黄金橋横、星野学園横集合。下流高澤橋まで、両岸清掃しながら、改良工事の結果を観察。近くの駐車場で分別整理して解散。

②5月23日（日）9:00-11:00

中流の終わりの豊橋左岸横集合。上流に向けて仙波大橋まで岸清掃。近くの幼稚園横で分別収集、解散。

松岡壽賀子（社会環境部会）

問い合わせ：高階南公民館（Tel.049-245-3581）

◎かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」

会場：高階南公民館 1 階（川越市藤原町 23-7）

参加費：無料

かんきょうサロンでは参加された方みなさんと環境や暮らし方、家族の健康について井戸端会議のようにお話ししています。1人でも多くの方が動いたら、減災・防災につながります。

（中止）

~~4月15日（木）13:00-15:00 マイ箸袋作りを中心~~（中止）

持ち物：25cm 四方の布またはハンカチ、裁縫道具

①5月20日（木）10:00-12:00「暑さ対策」

②6月17日（木）13:00-15:00「暑さ対策」

持ち物：直近2~3か月分の電気・ガス・水道の料金票

*日程等は諸事情により変更・中止になる場合があります。

小畔川の自然を考える会

問い合わせ・申し込み：賀登環（Tel. 049-234-9366）

◎魚類調査

日時：4月25日（日）10:00-12:00

場所：小畔川八幡橋付近（35.935417,139.44233

3）で Google 検索すると場所が表示されます）

手網でガサガサをして、魚類や水生昆虫の調査をします。ウェダーや用具は貸し出します。

気楽に参加ください。

公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部

問い合わせ：内野 (Tel.049-222-1731)、当日の携帯電話連絡 (Tel.090-7003-8617)

◎伊佐沼でバードウォッチング

(毎月第2日曜日、雨天中止)

集合：10:00 伊佐沼西岸蓮見橋近くのあずまや

持ち物：筆記用具・図鑑・双眼鏡・飲み物

参加費：一般 300 円、高校生以下 100 円 (保険代・資料代)

①4月11日(日) 10:00-12:00

水を溜めた沼に鳥たちは戻って来ているのでし

ょうか。魚や植物は変わりないでしょうか。春の生き物の活動を観察しましょう。

②5月9日(日) 10:00-12:00

10日からバードウィークです。鳥たちの子育てを邪魔しないように、沼で繁殖するカイツブリ、オオヨシキリなどを観察します。

広報委員会からのお知らせ

◎映画「タネは誰のもの」上映 (4/10-23)

日時：4月10日(土)-16日(金) 12:40-13:50、
4月17日(土)-23日(金) 12:50-14:00 (火・水曜日休館)

場所：川越スカラ座 (川越市元町 1-1-1)

料金：一般 1600 円、シニア (60 歳以上の方) 1200 円、大学生・障がい者 1000 円、小中学生 800 円、高校生 500 円

本会会員の原村政樹さんから次の情報を提供いただきました。ぜひご覧ください。

映画「タネは誰のもの」が上映されます。2018年、種子法が廃止され、各都道府県の優良なコメが多国籍企業に売り渡されようとしています。さらに今年4月からは改定種苗法が施行され、登録品種は農家による自家採種・自家増殖が一律禁止となりました。グローバル化の中で政府は種苗の知的財産を強化して、政府は農家よりも企業の権利を重視、多国籍アグリビジネスによる日本のタネが独占されるとの懸念も広がっています。

映画では「タネとは農家にとってどのような存在なのか」を主軸に北海道から種子島まで9か所の農村を取材し、作物を育てる農家の心に迫りました。その中で、映画「武蔵野」でも紹介した富の川越イモの生産者たちの姿も描きます。

上映時間は1時間5分、10日(土)には上映後、私は舞台挨拶に伺います。

映画詳細 (<https://kiroku-bito.com/tanedare/>)

川越スカラ座 (<http://k-scalaza.com>)

○「坂戸の自然、川と共に」発刊のご案内

坂戸市環境学館いずみで活動されている稲垣喜弘さんからご案内いただきました。3月20日より坂戸市ホームページからPDFファイルが無料でダウンロードできます。160ページにわたる内容が充実した図書です。「新訂版 川越の自然」とセットでぜひご覧ください。



坂戸市環境学館いずみ：坂戸の自然、川と共に

<https://www.city.sakado.lg.jp/site/izumi/22694.html>

○かわごえ環境ネット活動関連人事異動一覧

▽川越市環境部 ◎部長 高橋宗人(同副部長・環境政策課長事務取扱) ◎環境政策課 環境部副部長・環境政策課長事務取扱 山崎茂(環境対策課長事務取扱) 主事 金城紘希(同主事補) 主事 今野佳月 主事補 栗屋隼路(新規採用) ◎環境対策課 課長 山原弥 副課長 永井俊明(環境施設課環境衛生センター副主幹) 主任 三木硬介(同主事) 主事 熱田侑也(同主事補) 主事補 櫻庭彩加(新規

採用) ◎産業廃棄物指導課 副主幹 矢島亨 (環境対策課副主幹) 主任 島田純一 ◎資源循環推進課 環境部参事・資源循環推進課長 事務取扱 波立浩一(同課長) 主任 新井努 ◎収集管理課 課長 新井偉雄(同副課長) 副課長 犬塚信彦 ◎環境施設課 環境部参事・環境施設課長事務取扱 藤田雅司(同課長) 副主幹 菊本健(同主査) 主査 金子いずみ 主査 久保田ひとみ(同主任) 主任 中西崇 主任 奥田亘(同主事) 東清掃センター所長 山本勇志 資源化センター主査 高橋健(同主事) 同主査 野口健太 同技師 宇津直輝(同技師補) 小畔の里クリーンセンター所長 内山光寿 環境衛生センター副主幹 矢島利明(産業廃棄物指導課副主幹) ▽環境部からの転出 ○環境部長 福田忠博(退職) ○環境政策課 主事 馬渡開 教育財務課へ 主事 小柏実央 保育課へ ○環境対策課 副課長 谷沢寿江 川越駅東口図書館長へ ○資源循環推進課 主査 松尾裕美 国民健康保険課主査へ ○収集管理課 課長 矢島英也 財政部参事・市民税課長事務取扱へ ○環境施設課 主査 渡邊友絵 社会資本マネジメント課主査へ 主事補 大里宗也 市民税課 主事補へ 東清掃センター所長 中村義人(退職) 資源化センター主査 山田真章 建築住宅課主査へ 小畔の里クリーンセンター所長 長坂英之 児童センターこどもの城館長へ ▽川越市(関係部署) ○産業観光部参事・農政課長事務取扱 高梨直人(開発指導課長) 同観光課長 田中勝宏(地域創生課長) 同副部長・観光課長事務取扱の飯野英一副部長は専任に ○都市計画部都市計画課長 眞野和幸(水道課長) 同公園整備課長 細野健一(道路街路課長) ○農業委員会事務局長 忍田久夫(広聴課長) ▽埼玉県環境部 ◎環境未来局長 末柄勝朗 副部長 石井貴司 ◎環境政策課長 大山澄男 同調整幹 今川知浩 ◎温暖化対策課長 深野成昭 ◎水環境課長 山井毅 ◎みどり自然課長 河原塚啓史 ◎エネルギー環境課副課

長 小宮裕二 ◎大気環境課副課長 大江裕子 ◎資源循環推進課副課長 小ノ澤忠義 同・岸幹夫 ◎環境科学国際センター研究所長 大原利真 ◎西部環境管理事務所長 酒井辰夫 同副所長 平井毅 ▽埼玉県(関係部署) ○川越比企地域振興センター所長 中山昌克 同副所長 佐々木直子 ○川越農林振興センター所長 小畑幹 同副所長 吉岡幸夫 同管理部長 碓井真紀 同農村整備部長 辻村滋 ○川越県土整備事務所河川部長 小森敏(新) 同河川担当部長 筒井大輔(新) 新河岸川(川越・ふじみ野市)担当課長 宇高薫(新) 新河岸川(富士見市)担当課長 嶋田勇 不老川担当課長(新) 丸山晴行(新) ▽荒川上流河川事務所 所長 藤木雄介 副所長(事務) 米沢拓繁 同(技術) 三好健次(新) 調査課長 天井洋平 河川環境課長 鬼頭岳彦 入間川出張所長 野原賢一

●本紙への原稿投稿を受け付けています

2021年5月号(No.175, 5月1日発行予定)の掲載原稿は、4月15日(木)締切(必着)です。原稿と写真は電子データで編集担当共有のメーリングリスト(koho@ml.kawagoekankyo.net)にお送りください。メーリングリストは事前登録が必要です。未登録の方は事務局にお問い合わせください。メールを使用していない方は、かわごえ環境ネット事務局(環境政策課、川越市役所本庁舎5階)に提出してください。

○おことわり

本紙の記事は、各著者の寄稿及び広報委員会の編集によって構成されていますが、これらは、組織の公式な見解を示すものではありません。また、本紙は寄稿及び作成時点までの信頼できる各種情報に基づいて作成し、正確性の確保に努めていますが、その正確性に対してかわごえ環境ネットは責任を負いません。本紙は読者ご自身の判断と責任で利用いただき、本紙を利用することで生じたいかなるトラブルおよび損失、損害に対して、かわごえ環境ネットは一切責任を負いません。

イベントカレンダー (4月4日~5月26日)

新型コロナウイルスの感染状況によりかわごえ環境ネット主催の行事等において予定の変更がある場合には、情報が入り次第本会ホームページでお伝えします。会員団体等の行事は主催者にご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
4.4	4.5	4.6 ◎13:30 まち 美化啓発運動	4.7 ◆9:00 広報委 員会	4.8	4.9 ●13:00 社会 環境部会 ●15:00 自然 環境部会	4.10
4.11 ◎9:30 まち美 化啓発運動 ◎10:00伊佐召でバ ードウォッチング ◎映画「タネ は誰のもの」 上映 (-23日)	4.12 ★9:30 (仮称)川越 市森林公園計画地 植物調査・保全活動	4.13 ★9:00 池辺公 園定例活動	4.14 ◆9:00 事業運 営委員会 ◆10:00 理事会	4.15 ○本紙5月号 投稿期限 ◎13:00 かん きょうサロン (中止)	4.16 ◎13:30 まち 美化啓発運動 ○総会出欠返 信期限 (必着)	4.17
4.18	4.19	4.20	4.21	4.22	4.23	4.24 ◎13:30 まち 美化啓発運動
4.25 ◎9:00 新河岸川 市内流域清掃 ◎9:00 種まき ◎10:00 魚類調査	4.26 ★9:30 (仮称)川越 市森林公園計画地 植物調査・保全活動	4.27	4.28 ◆9:00 理事会	4.29 昭和の日	4.30	5.1 ◎田んぼで遊 ぼうピクニッ ク (-5.2)
5.2	5.3 憲法記念日	5.4 みどりの日 ◎13:30 まち 美化啓発運動	5.5 こどもの日 ◆9:00 広報委 員会	5.6	5.7	5.8
5.9 ★9:30 春の里 山 自然観察& クリーン活動 ◎9:30 まち美 化啓発運動 ◎10:00伊佐召でバ ードウォッチング	5.10 ★9:30 (仮称)川越 市森林公園計画地 植物調査・保全活動	5.11 ★9:00 池辺公 園定例活動	5.12	5.13	5.14 ●13:00 社会 環境部会 ●15:00 自然 環境部会	5.15 ○本紙6月号 投稿期限
5.16	5.17	5.18	5.19 ◆9:00 事業運 営委員会 ◆10:00 理事会	5.20 ◎10:00 かん きょうサロン	5.21 ◎13:30 まち 美化啓発運動 ○会費納入期限	5.22 ★9:30 川の一斉 水質調査説明会 ●10:00 総会 ◎13:30 まち 美化啓発運動 ◎15:00 田ん ぼ懇談会
5.23 ◎9:00 新河岸川 市内流域清掃	5.24 ★9:30 (仮称)川越 市森林公園計画地 植物調査・保全活動	5.25	5.26	★：会員内外対象の公開・出展イベント ●：会員全員が対象の総会・部会・イベント ◆：理事・委員等が対象の理事会・委員会 ◎：会員主催のイベント等 ○：その他 詳細は個別の記事をご覧ください		

月刊 かわごえ環境ネット 2021年4月号 No.174

発行日 2021年4月2日 編集・発行 かわごえ環境ネット 広報委員会

事務局 〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1 川越市環境部環境政策課

Tel. 049-224-5866 (直通) Fax. 049-225-9800 E-mail: kankyoseisaku@city.kawagoe.saitama.jp

かわごえ環境ネットホームページ <https://kawagoekankyo.net/>